

キングモンクット工科大学

## 参加報告書

国際関係学科 1 年（参加当時）

私は 2025 年 2 月 11 日から 23 日までの二週間、キングモンクット工科大学での語学研修に参加しました。平日には Cultural Class と English Language Class に参加し、実用的な英語力を養成した一方で、週末のアユタヤ遺跡の観光や、三泊四日のラチャブリでのアクティビティなど、現地での生活にて海外の空気に触れることができました。これらの経験から私は異文化理解を積極的に行い、英語力に関しても満足のいく成長が得られたのではないかと考えています。本報告書では、私のタイ現地での二週間での生活や、そこから得た学びについて報告します。

Cultural Class では、タイの文化についての学習をオーストリアやフランスからの留学生とともに学びました。現地特有のマナーなど、タイの文化にまつわることを丁寧に教えていただいた一方で、タイの方々の本名が長いことから、その人の個性や、本名にまつわる短いニックネームを作り、その名前で普段お互い呼び合っているという事も知りました。また、タイに到着してから受けた、各々のカルチャーショックをテーマにした英語でのグループディスカッションも行われ、最後には料理の注文の際に役に立つタイ語のフレーズを教えてくださいました。タイで生活する最初期にこの授業に参加できたことは非常に意義があったと思います。また、この場では自分が実感したカルチャーショックやその背景を詳細に英語で説明しなければならないため、順序だてて英語を話すことを意識しました。この経験もあり、他の機会で留学生の方々と交流する際には、順序良く自分の伝えたいことを表現することができ、コミュニケーションがうまくいったと感じる場面が多くありました。このような自分の意見を口語で表現する練習を今後行っていき、スピーキングにおいての英語力をさらに伸ばしていきたいと考えています。

English Class では、TETET という試験の再受験に向けて、ビジネス英語に親しむための授業を受けました。TETET はビジネス英語を中心とした大学の試験で、長文のビジネスメールの読解や作文、また時間制限のある Speaking 問題を特に難しく感じました。同じ問題にて再試験を行うため、平日に行われる English Class ではその対策として、担当してくださった先生が作文や発音について丁寧にアドバイスをしてくださいました。教職員の方々は私たち学生にとっても優しくくださり、昼食の時間に車でレストランに連れて行ってくださったこともありました。他にも英語でのプレゼンテーションの方法や、パラグラフに関する英作文のテクニックなど、日本に戻ってからの大学の英語の授業で活用できる英語力を得ることができたと思います。この授業で私が実感したことは、英語での文法用語など、特定の分野に対しての自分の単語力が足りないことです。文法の授業にて、専門用語が分からないと先生に正直に伝えたところ、重要な単語と意味を板書してくださいましたが、自分の知識不足で授業を遅らせてしまった事について非常に申し訳なく思ったことがありました。さらに、その授業の内容に関して全て理解したとは言えず、少し後悔の残る結果となってしまった事を悔やんでいます。これらの経験から、次の海外渡航の際には最大限授業内容の単語を覚えてから出発するべきであると考えています。ま

た、このことを実感して留学中に実際に取り組んだものとして、前もって授業内容のシラバスを確認し、授業で使われる英単語をリストアップして単語集を作成する取り組みを行いました。このことによって、他の授業では格段に授業内容を理解できるようになったため、このような自分のできる工夫を最大限実践し、今後英語で行われる授業についていきたいと考えています。

次に、授業以外の活動に関して報告します。放課後に外食に行く際や、週末に大型モールやアユタヤ遺跡に訪問した際、またバンモッドでの課外学習では、ほとんどタイのバディの方が付き添って下さいました。バスやコンビニ、地方のレストランでは英語がほとんど通じませんでしたが、バディの方のおかげで快適にバスやタクシー、電車での移動や、レストランでのサービスを受けることができたと思います。特に週末のアユタヤでの自由散策の時間では、英語が流暢なバディの方がついてくださり、世界遺産の詳細や破壊された仏像などの歴史的背景を説明して下さいました。バディの方々とは常に英語でコミュニケーションをとるため、自身の日常会話においての英語力を測る上では絶好の機会であったと思います。また、バディの方がタイ語で日常会話に使えるフレーズを教えてください、他のタイ人の方と話す際にそのフレーズを使うと距離感がかなり縮まったことを実感しました。現地の言葉でコミュニケーションが少し取れたことは、外国語を学んで話せるようになる楽しさを感じることができたため、強く私の心に残っています。

次に、ラチャブリでのアクティビティについて報告します。研修生活二週目の2月17日から20日までバンコクのキングモンクット工科大学を離れ、二時間移動したラチャブリキャンパスにて課外学習を行いました。この研修には、バンコクのタイ人学生と、前述したフランス人とオーストリアの留学生も同行しています。現地では新しいタイのバディの方々と出会い、それぞれの国の文化交流も行いました。タイの伝統舞踊やフランスで有名なアーティストを教えて頂いた一方で、日本の文化紹介として折り鶴を作成しました。大変喜ばれたため、望ましい結果となったと思います。他にも Suan Phueng Highlands という動物公園や、Khao Ngu 自然公園を訪問し、伝統的な陶芸に関する資料館にて小さな焼き物に絵付けを行うなど、それぞれ英語での交流を行いつつ、アクティビティを存分に楽しむことができました。一方で、この場合は移動先で学生のみで行動するため、初めて会う学生に自分から積極的に話しかけることで、新たな交友関係が広がっていくことを実感することが多くありました。このような積極性を持つことによって、現地の方々と行動を共にすることができ、現地の人々が食事の場面や友達に対してどのように振る舞うのかに対して理解を深めることもできたのではないかと思います。

私は今回の語学研修に参加したことで、自分の英語力の現状を実感することができました。まず、English Class で先生から英作文とプレゼンテーションについて高く評価され、これらの分野には自信を持った一方で、バディとの雑談の応答に不自由することもありました。そのため、今後は口語的な英語力を鍛えていきたいと考えています。また、日本の文化を英語で説明することや、他国の文化について疑問を持ったことを英語で質問することもできましたが、伝えたいことをうまく英語にすることが難しかった場面もありました。しかし総括して、異文化に対する自分の姿勢を現地の方々に共有することができたため、異文化に順応する方法をうまく実践できたのではないかと感じています。以上より、今回

の体験で私は自身の英語力の改善点を見つけ出すことができました。また、四回目の海外渡航の経験にして、初めて私の英語力が海外の方から高評価を受けるという喜ばしい出来事もありました。これらのことを踏まえ、英作文とプレゼンテーションの技術をさらに向上させ、よりスムーズに英語での日常会話ができるように学習を続けたいと考えています。

